

翔

NO.77

'89 JUNE



Butterfly

Beetle

Insect

百万石蝶談会

スギタニルリシジミの浅野川水系からの記録

野中 勝

石川県のスギタニルリシジミの記録は1986年にまとめられた¹⁾が、その時点では、犀川水系が北東限となっていた。今回、浅野川水系から本種を記録したので報告しておく。

1989年4月9日 金沢市横谷 1♂ 野中 勝 採集

なお、付近にトチノキは見当らなかった。

文献 1) 野中 勝(1986)石川県のスギタニルリシジミ、翔56:2~4
《のなか まさる 〒920 金沢市涌波町2-7-20》

能登のオオムラサキ

松井 正人

全国に分布し、日本の国蝶にも選ばれ知名度が高いオオムラサキは、もちろん石川県にも広く分布していると思われる。ところが国蝶にふさわしいたくましさ、美しさ、大きさは、当然誰もを一度は採集熱にうならせているだろうに、報告されたものは大変少なく、中でも能登地方の記録は、筆者が知る範囲では以下の6件にすぎない。

1965年7月	押水町宝達山	砂山 博(1)
8月3日	鹿島町石動山	和田木征範(2)
1965年7月25日	輪島市高洲山	石畑久雄(3)
1965年7月28日	輪島市高洲山 数頭目撃	日吉芳朗(3)
1965年8月5日	輪島市高洲山 1頭	石畑久雄(3)
1975年7月21日	珠洲市東山中	松枝 章(4)

これは能登における分布が極めて薄いのか、ただ単に記録されていないだけなのだろうか。田中(1987)は1986年に金沢市のオオムラサキを調査し、28カ所の産地を報告しているが、大勢の虫屋を抱える金沢でさえ、この報告以前はほとんど記録されていなかったことを思うと、能登も同じ様な気がする。

能登でちょっと調べてみて下さい。各地で普通に見られるかも知れません。

参 (1)砂山 博(1975)羽咋地方のチョウの目録 とっくりばち(30・31):1~3
考 (2)和田木征範(1957)石動山へ登って とっくりばち(2):17~19
文 (3)日吉芳朗(1967)石川県旧輪島町周辺の蝶類について
献 (4)松枝 章(1976)珠洲市の動物(昆虫類)石川県珠洲市史(1):349~368
《まつい まさと 〒920⁰¹ 金沢市大場町東871-15》

1989年度ギフチョウ確認記録

吉村久貴

年号が「平成」になって、気持ちが変わったからではないが、久しぶりに網を持ってギフチョウを追ってみた。今年は発生がかなり早かったようである。

- ☒1989年4月2日 石川県小松市那谷 2♂目撃 吉村久貴
 " " 辰口町 2♂(スレ) "
- ☒1989年4月3日 福井県南条町柚山 1♂(スレ) 吉村久貴
 " " 清水町上天下 1♂(スレ) "
- ☒1989年4月5日 福井県南条町柚山 1♂(ボロ) 吉村久貴
 " 石川県小松市那谷 3♂2♀(スレ) "
- ☒1989年4月6日 新潟県弥彦村 3♂(和)4♀(完) 吉村久貴
 " " 巻町仁箇 4♀(完) "

カタクリが満開、コシノカンアオイは多数あり、すべて斑入りだった。

- ☒1989年4月30日 長野県白馬村 4♂(完:仁0-1) 吉村久貴
 カタクリが満開、カンアオイの新葉はほとんど出ていなかった。

- ☒1989年5月4日 長野県白馬村 1♂(完) 吉村久貴
 カタクリは満開を過ぎたところ。

《よしむら ひさき 〒920 金沢市旭町3-21-16》

ギフチョウ初見記録の追加

野中勝

石川県のギフチョウ初見記録は、松井(翔69号)によりまとめられ、その後、吉岡(翔75号)がより早い記録を報告している。筆者の手元にこれを更新する記録があるので報告しておく。

1982年3月22日 金沢市下谷 1頭目撃 野中勝

ところで今年(1989年)は新記録が出たそうであるが、3年続きの暖冬と聞くと果たして素直に喜んで良いものかと疑問になってくる。何か地球規模での異変が進行している様な気もして、「蝶の異常発生だ」「絶滅だ」などと言っているうちに、「人類が絶滅」という事態にならねば良い思うのだが・・・。

《のなか まさる 〒920 金沢市涌波町2-7-20》

ミズイロオナガシジミをサクラより採卵

野 中 勝

ミズイロオナガシジミ卵を、ヤマザクラと思われるサクラの大木から得たので報告する。

1988年10月23日 石川県石川郡河内村奥池 1卵 野中 勝

なお、同一樹からメスアカミドリシジミも1卵得られた。ミズイロオナガはブナ属以外からの採卵記録が多く(原色日本蝶類生態図鑑Ⅲ、保育社)、石川県でもマルバアオダモの記録(翔 36、p5)が存在する。

《のなか まさる 〒920 金沢市涌波町2-7-20》

金沢市近傍のメスアカミドリシジミの記録

野 中 勝

採卵調査によりこれまでに判明した金沢市周辺のメスアカミドリシジミの発生地は、尾根筋では標高600m以上、溪谷では標高300m以上にほぼ限定されている。1988~1989年のシーズンはメスアカミドリ卵の当たり年であった様で、例年見られなかった低標高地にて卵を確認することができたので報告しておく。

1) 金沢市寺津発電所 標高200m 1988年10月22日 1卵

発電所付近の、人為的に植栽されたと思われるサクラの大木より得た。数年前にも同所で採卵を試みたことがあるが卵は見出されず、犀川ダム付近の標高350mまで遡ってようやく採卵できた事を記憶している。

2) 金沢市新保 標高380m 1988年11月3日 1卵

尾根近くの斜面で、スギ植林地に接して存在する雑木林の林縁のキンキマメザクラより得た。石川県の低山地にはキンキマメザクラが極めて多いが、これまでの調査で卵が得られた事は無く、多産年の例外的な産卵例と考えられる。ただし、高標高地ではキンキマメザクラが主要な植樹となっているようなので、メスアカミドリの分布を限定する要因は植樹以外の所に求められなければならない。

《のなか まさる 〒920 金沢市涌波町2-7-20》

○	短 報	18	○
	ウスバシロチョウ		
	1989年4月29日	金沢市熊走	10♂ 野中 勝
	1989年4月29日	金沢市俵	1頭目撃 井村 正行
	1989年4月29日	鶴来町八幡	多数目撃 嗟峨井淳郎
○			○

熊走でウスバシロチョウを採幼

野中 勝・松井正人

ウスバシロチョウの多産地で知られる金沢市熊走で採幼を行なった。幼虫はなかなか発見できず、2人で2時間程捜し、ようやくジロボウエンゴサクをすさまじいスピードで摂食中の1幼と、ムラサキケマンを摂食中の2幼を採集した。

この日は快晴で、採幼を始めた午後2時頃は温かかったが、日向ぼっこをしているものは見られなかった。

ジロボウエンゴサクはカーペットを敷いた様に花盛りで、ムラサキケマンは日当たりの良い極成長の早いものは花を付けていたが、ほとんどはまだ芽を出したばかりで何処にあるのか分からない様な状態だった。

ウスバシロチョウ 1989年4月2日 金沢市熊走 野中 勝・松井正人

ジロボウエンゴサク 1幼(終齢) ムラサキケマン 2幼(終齢、終齢前)

《のなか まさる 〒920 金沢市涌波町2-7-20》

《まつい まさと 〒920⁰¹ 金沢市大場町東871-15》

8月の八尾町白木峰にて

松井正人

嵯峨井(翔66号)によると、富山県八尾町白木峰(1586m)にはワレモコウがあり、ゴマシジミが期待できるとある。

さっそく翌年8月、まさしくゴマシジミ・シーズンに、白木峰を訪れた。金沢からピークまで約2時間。本来ならピークまでは車で入れず、途中のクサリ場から20分程を歩かねばならないが、平日の為かクサリが外れていて、これ幸いとピークのNTTパラボラアンテナまで車を乗り入れた。

ピーク付近はなだらかな高原で、環境はゴマシジミの採れている白峰村の赤兎山とまさしくそっくりで、ワレモコウもビッシリあり、「ゴマシジミはもらった」と思われた。ところが、ゴマシジミは発見できず、ワレモコウもNTTの周りでしか見られないといった人為的影響の強いものだった。

目的は果たせなかったものの夢は消えてしまった訳ではなく、再度の挑戦も考えている。また白木峰は、眺望もさる事ながら、高原的なムードも最高で、なかなかの所。家族サービスを兼ねて訪れるのも楽しいかと思われる。

1988年8月8日 富山県八尾町白木峰ピーク 松井正人目撃

ミヤマカラスアゲハ 1♂ キアゲハ 3♂

ヒメキマダラヒカゲ 5頭 クロヒカゲ 2♂

ジョウザンミドリシジミ 6♂ アサギマダラ 1頭

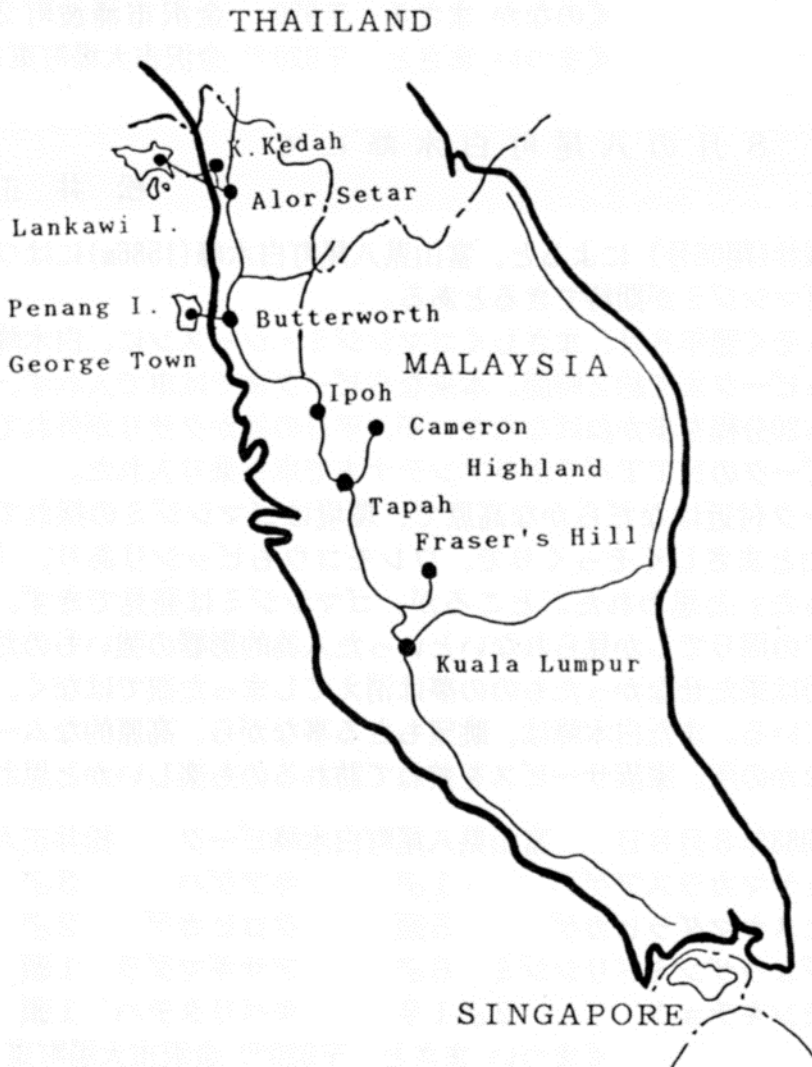
モンキチョウ 2♂1♀ キベリタテハ 1頭

《まつい まさと 〒920⁰¹ 金沢市大場町東871-15》

マレーシア採集旅行覚え書

指田 春喜

昨年末から年始にかけて、2週間ひとりマレーシアで蝶の採集を行なった。採集品の整理は、これから国内の採集シーズン（私の場合、あくまでも成虫のシーズンを指す）までに片付けるとして、旅の思い・感動が薄れないうちに、そのつれづれを振り返ってみることにする。特に、これからマレーシアに進出する予定の会員への何等かの参考になればと思い、『虫屋のためのマレーシア旅行術』ということをおき、書いてみた。従って、ちょうちょうの名前はほとんど出てこない。まだ整理をしていないので、同定ができない（展翅をしても同定できないかも知れないが）。いずれその結果は報告したい。本稿は一般的な旅行の記述や案内は他のガイドに譲り、それらを補足するものである。従って、市販のそれらを併せて参考にして頂きたい。



《 A. 出発まで 》

1. VISA (ビザ、査証)

帰りの日時のはっきりした航空券をもって、2週間以内の滞在であれば、ビザはいらない。現地で3ヶ月までの延長も可能。

2. 格安航空券

年末年始(12/25~1/4)はどこも最高に高いのはあたりまえ。2月や6月が最も安い。今回の場合(12/24~1/7)は¥11万5000円であった。

3. 予防注射など

マレーシアは渡航に際しては、その義務は無いが、コレラはしておいても損はない。1週間おいて、2回に分けて行なう。県庁内診療所で¥1350円。マラリアについては、その予防薬が購入できる。これは1週間おきに2錠ずつ服用。1錠¥100円(東京品川、赤玉薬局)。しかし、ともに必ずしも必要ないような気もした。

4. 日本国内移動：成田空港まで

大阪や名古屋の方が近いが、毎日運航しているMAS(マレーシア航空)は成田だけからである。金沢-東京間は池袋サンシャイン行きの夜行バスが安くて便利。22時30分発、所要時間7時間半、¥7500円。上野からはスカイライナー(公園口から徒歩5分の京成上野より65分、¥1700円)を利用するのが最も安くて速い。

《 B. 空港(日本)~機内 》

パスポート、貴重品、黒のボールペンは必ず自分で持って、機内に入る。別にこれと言ってすることもないので、ジャンジャン酒を飲もう。タダである。

《 C. 空港~ホテル 》

1. 入国審査

パスポート、入国カード(着陸の1時間くらい前に配られるので、機内で記入しておく。サイン以外は英語の活字体で書くこと)を提出する。多くの場合問題はないが、滞在目的を聞かれた時は「holiday」か「sight seeing」にしておくほうが、面倒なことにならない。

2. リコンファーム(搭乗予約の再確認)

帰りの日や便が決まっているなら、空港(スパン空港)の2階の航空会社のカウンターに行き、リコンファームを済ませておくと良い。

3. 通 貨

私の両替した時点では(1988年12月現在) 1 USA \$ = 123円 = 2.66M \$ (マレーシアドル)であり、1 M \$ = 46円であった。つまり、1 M \$ がだいたい50円くらいだと思っていればよい訳だが、物価が安いために、実際は100円以上の価値がある。ちなみに、ガソリン1ℓは 0.85 ~ 0.90M \$ であった。

近年、日本経済の発展にともない、円が強くなり、東南アジアでは円から直接現地通貨に両替できるが、これは都市部の大銀行だけである。日本からは米ドルとして持っていった方がよい。また、紛失や盗難などの安全性を考慮すると、米ドルのトラベラーズ・チェックがベスト。かなり田舎（例えば、キャメロン・ハイランドのタナ・ラタや北部タイ国境のランカウィ島など）でも全く問題なく、M\$に両替できる。レートも悪くなく、キャッシュより良いくらいである。

4. タクシー

出て右側でタクシーチケットを買う。空港から市内まではゾーン制をしいて、15M\$前後である。

5. ホテル

ホテルは一概には言えないが、チャイナタウンの中にあるマラヤホテル(HOTEL MARAYA)、フラマホテル(HOTEL FURAMA)が便利である。1泊60M\$くらい。これらは中クラスのホテルであるが、一応全てのホテルサービスが受けられ、入国第一夜や帰国前夜のホテルとして薦められる。理由はマレーシア国内移動のためのバスターミナルであるプドゥ・ラヤ(Pudu Raya)バスターミナルに歩いて5分と近いことである。キャメロン・ハイランド(Cameron Highlands)などの採集地へ行くバスはすべてここから出る。そして、ここには夕方6時を過ぎるころからチャイニーズ・フーズの屋台が出てくるので、それらをひやかしながら色々な物を食べるのが楽しい。ビールを飲み、エビ、カニ、鶏肉等かなり食べても1人20M\$以下で済む。

6. 地 図

現地購入可能。クアラ・ルンプール(Kuala Lumpur:K.L.)市内のチャイナタウンで、4M\$くらいである。

7. 言 葉

マレーシアは多民族国家であり、マレーシア人、インド人、中国人(華僑)の3人種が大半を占め、それぞれがその民族の言葉を話すが、公用語はマレー語であるものの、ほとんどの人は英語が話せる。街中では、英語だけで不自由はなく、もちろんホテルのフロントやタクシーの運転手なども英語でOK(我々よりも上手である)。その他の人達もかなり上手である。はやい話しが、その辺の八百屋や魚屋のオッサン、オバサンが英語を話すのである。

《 D. マレーシア国内の移動、そして採集地へ 》

1. 採集シーズン

基本的には、1年中を通して採集が可能であろう。しかしながら、12、1、2月は雨期であり、この時期は必ず午後2時くらいから曇りとなり、夕方は雨となる。特に、キャメロン・ハイランドやフレイザス・ヒル(Fraser's Hill)などの高地ではガスのかかった日が多いようであるので、この時期は平地で採集した

ほうが賢明である。

2. マレーシア国内移動術

日本の空港からマレーシアのスバン(Subang)空港まで所要時間は6~7時間であり、その日のうちに採集地まで入ることは不可能である。時差は1時間。日本の方が1時間早い。マレーシア国内の全ての長距離バスはK.L.プドゥ・ラヤ・バスターミナル2階から出るが、乗り遅れたり、運悪く、すぐ出発のバスが無い場合などは、3階のタクシー乗り場へ行くことを薦める。ここでは手配師のような人が、その行き先を大声で怒鳴りながら、客を捜している。目的地への客が3~4人になると出発する。この乗り合いタクシーはその運賃を人数で割るという極めて合理的なものである。値段はその場所、目的地、そして交渉次第だが、1時間の乗車距離で、1人当り5~10M\$とそれ程高いものではなく、マレーシア人の日常の交通手段の一つになっている。

《 E. 採集地について 》

1. キャメロン・ハイランドとは

マレーシアでの昆虫採集は、ここキャメロン・ハイランドを抜きには語れない程の有名かつ好採集地であり、歴史もある。標本商も何人かいる。キャメロン・ハイランドとは、タパ(Tapah)の街からブリンチャン(Brinchang)までの45マイル(72km)程を指し、この間にリングレット(Ringlet)、タナ・ラタ(Tanah Rata)の二つの街がある。それ以外には家もほとんど無く、宿泊施設などは全く無し。このキャメロン・ハイランドへのバスはプドゥ・ラヤ・バスターミナルから出るが、1日に1本しかなく、午前9時(去年の同時期には、午前8時半であった)に出る。7.50M\$。所要時間：5時間。

採集地のポイントとしては、次の場所が知られる。

- ▼7マイル、10マイル：キャメロン・ハイランドの低標高地（キャメロン・ローランドか）のポイントであり、ここより下にはジャングルはない。
- ▼14マイル：滝があり、アカエリトリバネアゲハ（ブルキアナ、現地ではラジャ・ブルークと呼ばれている）のポイントとして知られるが、休日などは観光バスで来た一般観光客が多く、採集はしにくいかも知れない。
- ▼19マイル：キャメロン・ハイランドの中でも屈指の好採集地であろう。今回、私はここで2日採集した。

何マイルと言うポイントは、タパの街からの距離であり、そこが採集のポイントになっている訳である。バス停は無く、どこでも合図をすれば乗車できる。降車の場合は、前もって車掌に頼んでおくほうが良い。バス道路沿いには蝶は少なく、採集には向かない。タナ・ラタの街から38マイル(2時間)なので、19マイルより下に採集のウエイトを置くなら、タパの街に宿泊するのが便利であろう。今回、私はキャメロン・ハイランドでの上の方での採集を主としたの

で、タナ・ラタを拠点とした。タナ・ラタは標高が高い(約1500m)ので、日中は別としても朝晩は涼しく、エアコンは要らない(安いホテルには無い)。宿泊は聲明旅社(SEAH MENG HOTEL)が安くて、比較的清潔であった。シングル:15M\$。湯シャワー、トイレは共同。街中にあり、中国人の愛想の良い中年オヤジは仲なか好感が持てる。

銀行(Hong Kong Bankともう一つあったが、忘れた)もあり、現地通貨に両替もできる(9AM~3PM)。

食事は「レストラン」と称する店がかなりあり、全く不自由しない。パンやカンヅメ、チーズ、果物など何でも手に入るし、安い。バナナが1kgで1M\$であった。私はこのタナ・ラタの街に4泊したが、この間晩飯は、街の中ほどにある小さな店(ニコラス・陳という気立ての良い中国人青年がやっている)で、3~4本の缶ビールと共にステーキ(6M\$)を毎日食べた。その後、焼飯(ナシ・ゴレン)か焼ソバ(ミー・ゴレン)とティー(ミルク・ティー)で12~15M\$である。何と安いことか! (それにしても日本は高すぎる。)

標本商は何人かいるようであり、わたしはそのうちの1人、頼善春(Lai Sen Choon)に会った。このオヤジは仲なか親切であり、頼めばホテルなどの紹介もしてくれたり、色々相談に乗ってくれる好人物である。しかしながら、昆虫の商談になると全くまけない。キャメロンの蝶の他、コーカサスオオカブト、アトラスオオカブト、マレーテナガゴガネなどのストックもいくらかあるが、あまり新鮮ではない。アトラスは5M\$くらいだが、コーカサスは35~50M\$もする。甲虫は需要が多く、大きいものは仲なか手に入らないので、『嫌なら買わなくてもいいよ』といった感じすらする。

▼19マイルポイント

タナ・ラタからタパ方面にバスで1時間(1.60M\$)。バスは午前8時が始発でそれ以後1~1.5時間に1本の割合である。橋のたもとにインド人の経営する雑貨商があり、そこを川に沿って上流に入る(入口が分かりにくく、山道は極めて細い)。15分ほど歩いたところに現地人(サカエ族)の家が数軒ある。家屋は高床式で、自分達で作ったもの。また裸足で歩くなどかなりの原始生活をしている。さらに5分ほど歩くと、有名な糞尿トラップの所に出る。ここより上はかなり薄暗いジャングル(もちろん所々開けているが)であり、竹が混在する。川に入る気であれば、かなり上流まで遡れるが、適当な所で引き返すべきであろう。私は1日おいて、2日間をここでの採集に当てたが、蝶の種類数は豊富であり、飽きることはない。

▼グヌン・ブリンチャン(Gunong Brinchang)

タナ・ラタからバスで15分の所にブリンチャンという街があり、この後にそびえている山がグヌン・ブリンチャン(標高約2000m)である。山頂まで車で入れるが、バスの便はない。ブリンチャンの街でタクシーをチャーターするか、タナ・ラタからカンポン・ラジャ(Kampong Raja) 行きのバスで Butterfly Shop

(30分ほど)で下車して、歩くしかない。しかも、かなり上まで茶畑になっていて、山麓は採集には向きそうもない。Butterfly Shop (3~4軒あり、高原野菜や花と共に昆虫を一般向けに売っている)をひやかしながら、ここを通るタクシーを拾うことができれば、これが最も安くつく。10M\$くらいか。帰りの迎えも頼めば、なお良いであろう。

山頂には軍の通信施設があり、兵士が常駐している。ここでは、高地性のデリアスが採集できる。私は2種(普通種か?)採集したが、あと珍種が2種類いるらしい。また、山頂は吹き上げになっていて、4月頃にはネッタイミドリシジミのポイントになっている。種類は少ないが、珍稀種が採集でき、19マイル地点の蝶相とは全く異なる。しかしながら、この時期(12月~2月)は雨期であり、天候は良くなかった。

▼グヌン・ジャサール(Gunong Jasar)

タナ・ラタの街をタパ方面に下ると、10分程で最後の建物であるHolly Apartmentがある。このアパートの前庭と駐車場との間の奥に登り口があるが、これが分かりにくい。ゆっくり登っても、1時間で山頂(標高約1600m)に着く。この間、ジャングルの中の路はしっかりと付いていて、迷うことはないが、蝶は少ない。山頂は少し開けた吹き上げになっていて、良いポイントである。ここで、採集人Wonng Tet Sing (日本の標本商へのディーラーであると本人は言っていた)に会った。彼はここがキャメロン・ハイランドでの山地性の蝶の一番良い採集地であると言い切っていた。確かに、19マイルやブリンチャンとも全く異なった蝶が採集できた。

2. ペナン(Pinang)島(向こうの人は『ピネン』と発音する)へ

私はキャメロンの最終日(12/30)グヌン・ジャサールで午後1時まで採集して、その後、トラベラーズ・チェックをM\$に交換し、2時半のバスでタナ・ラタを後にした。

タナ・ラタ	$\frac{\text{バス}}{2\text{h}, 3\text{M}\$}$	タパ	$\frac{\text{バス}}{1.5\text{h}, 3\text{M}\$}$	イポー	$\frac{\text{バス}}{5\text{min}, 0.30\text{M}\$}$	メダム・キッド	—
						(イポーのバスターミナル)	
乗り合いタクシー		バター・ワース		フェリー		ジョージ・タウン(ペナン島)	
$\frac{2.5\text{h}, 14\text{M}\$}{}$				$\frac{15\text{min}, 0.40\text{M}\$}{}$			

上記のように乗り継ぎ、ジョージ・タウン(George Town)でトライ・ショーという人力車(2M\$)を拾いホテルに着いたら、翌日(12/31)の午前1時半であった。亜洲旅社(AH CHEW HOTEL)シングル: 15.40M\$。エアコンなし、水シャワー付、トイレは共同。

▼森林公園 (Forest Park)

ペナン島の北西部にあり、ジョージ・タウンよりタクシーで1時間(18M\$)。中には小川も流れており、多くの人たちがピクニックに来ていた。手の余り入っていないジャングルもかなり残されており、好採集地と言える。ここまでバスの便もあるらしいが、詳細は不明(ジョージ・タウンからだ乗り換えが必要らしい)。平地性のイナズマチョウ類が多く、公園の入口の花にはキシタも吸蜜に来るなど、大型種の採集が楽しめた。また、歩いて10分の所に Butterfly House があり、一般の観光客を相手に昆虫(主に蝶だが)を生きたまま、東京の多摩動物園のインセクタリウムみたいな感じで展示している。入場料2M\$。ペナン島の採集地としては、ペナン・ヒル(ケーブルカーで上がり、採集しながら降りてくると良いらしい)や熱帯植物園などが知られるが、今回、私は行かなかったので分からない。

3. ランカウィ (Langkawi) 島へ

ペナンの森林公園で3時まで採集してホテルに戻り、荷物を取り、すぐフェリー乗り場に行った。帰りはフェリーの代金は要らない。

バター・ワース(butter worth)のバスターミナルの2階で晚めし後、バスでアロー・スター(Alor Setar)に向かった。

2時間、3.50M\$。アロー・スターのバスターミナルは街外れにあるらしく、午後9時に着いた時は辺りは薄暗かった。トライ・ショーで安いホテルに案内してもらった。プトウラ・ジャヤ・ホテル(HOTEL PUTRA JAYA)、シングル、エアコンなし、シャワー・トイレ付きで20M\$。

翌朝(12/31)8時に予約しておいたタクシーでクアラ・ケダー(Kuala Kedah)のフェリー乗り場へ(30min、4M\$)。

ランカウィ島はマレーシアの最北端、タイとの国境にある島である。ここへはクアラ・ケダーの他、クアラ・ペルリス(K.Perlis)からもフェリーあり。ともに1日4本。朝は9AM頃が始発か。所要時間：約1時間、14M\$。クアの街までタクシーは1M\$。

マレーシアでも年末年始の休暇で、どこも行楽地は混んでいた。ランカウィ・ホテル(HOTEL LANGKAWI)は満員でことわられ、おまけに特別料金で普段の2倍の料金を取っていたのには、ビックリ。熱帯の楽園も、こんなところは日本と同じであった。

アジア・ホテル(HOTEL ASIA)、シングル、エアコン付、シャワー・トイレは共同で20M\$。ホテル、部屋ともにあまり清潔ではなく、シャワーの水も満足に出なかった。

▼グヌン・ラヤ(Gunong Raya)

ランカウィ島の最高峰であるグヌン・ラヤの登山口であるUla Melaka村までタクシーで1時間、10M\$。村から15分ほどゴムのプランテーションの中を歩

く。小川がジャングルの中を流れ、所々に吸水のポイントもある。ジャングルの中にゆっくり採集すると1.5～2時間ほどで1周できる山路があり、色々な蝶の採集が楽しめる。二日目の朝9時頃から、私好みのブルーに光るシジミチョウが常緑樹の梢をチラチラ飛ぶのが観察された。それ程高い所を飛ぶ訳でもなく、別に速く飛ぶ訳でもなかったが、採り逃がしたのもかなりあった。しばらくして、なんとなく採集のコツが分かりかけた時、その蝶はいなくなってしまった。この間ほんの30分程であり、それ以後は全く姿を見せなかった。前日もそこにはいなかったように思う。当地も種類、個体数ともに多い好採集地であり、私は2日間ここに通り、熱帯の蝶の採集の面白さを十分に味わうことができた。2日目(1/1)、午後2時までここグヌン・ラヤで採集後、呼んでおいたタクシーでホテルから荷物を取り、そのままフェリー乗り場へ。

クアラ・ケダー	$\frac{\text{タクシー}}{2.5\text{h}, 10\text{M}\$}$	バター・ワース	$\frac{\text{夜行バス}}{7\text{h}, 20\text{M}\$}$	クアラ・ルンプール	—
	$\frac{\text{タクシー}}{1.5\text{h}, 20\text{M}\$}$	クアラ・クブパール			

4. フレーザース・ヒル(Fraser's Hill)へ

■山麓部のポイント

最近、キャメロン・ハイランドを経験してしまった虫屋はここに入るらしい。つい最近、安達氏がフレーザース・ヒルの低地部の採集ポイントを「昆虫と自然」に紹介している。そこはクアラ・クブ・パール(K.Kubu Baharu)から8マイル(バスで15～20分)程の場所で、橋を渡った所から右に入る林道がある。私が当地へ入った日(1/2)は、あいにく小雨模様と天気が悪く、蝶はさっぱりであった。パールからフレーザース・ヒルまでの間には、これ以外に適当な林道はほとんどない。ここの林道も10分程歩いたところで膝上までの川を渡らなければならず、天候も悪かったので、私はその先には進まなかった。雨期でなければ水位は下がり、楽に向う側に渡れると思う。いずれにしてもシーズンを変えて、再度チャレンジしてみる価値はありそうであった。

■ウォーターフォールおよびその周辺

フレーザース・ヒルは日本の軽井沢のような所であり、パールから上まで行くバスは1日2本だけ(8 AM、12 PM)。約2時間、3 M\$。最後の5マイルは路が細く、時間制の交互通行になっている。ここまで(Raub)ならば、バスの便が多くあるらしい。バスはフレーザース・ヒルに入らず、まっすぐどっかに行くようなので、ここで下車すれば良い。後はヒッチ・ハイクができる。余談ながら、私はシカゴから来た米国人夫妻の車に乗せてもらった。この時、予め

しゃべる文章を考えておいたので、割合スムーズに話したせいか、英語の実力を過大評価され、車中での会話は話しが早く、良く分からなかったところがあった。

ここのメルリン・ホテル(MERLIN INN RESORT)は少し高いが、仲間がリッチな気分になれる良いホテルである。VISAなどのカードが通用する。1泊75M\$ (税・サービス別)。私はここに2泊したが、この時期は前にも記したように雨期のために天候がすぐれず、1日中ガスがかかっていた。霧雨が降り、蝶々の採集は全然できなかった。どうも2月中旬までいつもそうらしいので、注意を要する。

フレーザーズ・ヒルの上は自然がかなり良く残されているが、クルマの通る道路しかなく、ジャングルの中に入る径がほとんどなかった。それでも天候さえ良ければ、その道路でも充分採集が可能と思われる。採集のポイントとしては、歩いて1時間程の Water fall が知られ、私はその近くまで行ったが、雨で蝶は全く見るができなかった。なお、フレーザーズ・ヒルの街灯では、夜間採集でアトラスオオカブトなどが採れるらしい。私は昼間蝶の採集もせず、酒ばかりの生活をしていて、ここでの夜はそんな暇はなかった。(虫は買った方が安くつく。)

ホテルより10分程歩いた所に、白亜の邸宅に住む中国人ブーン(雲 昌鳳)氏がいて、標本を少し持っている。本人も集めているようなところもあるが、主に外国人の観光客相手にみやげ用に売っているようである。めぼしいものはなく、虫の知識もいまひとつであるが、気立ては極めて良い。

フレーザーズ・ヒルについては、以上のように全く採集ができなかったのも、多くを語ることが出来ない。しかしながら、キャメロン・ハイランドとはだいぶ違った蝶の顔が見られる由、聞き及んでいるので今後が楽しみである。

《 F. マレーシアでの採集のための参考文献とその解題 》

もちろんこれら以外にもたくさんあるが、以下のものは今回、私がマレーシアに旅行するにあたり、目を通したものであり、その全ては筆者の手元にある。

☐ マレーシアへの旅行に関する一般的なもの

1. 宝島スーパーガイド アジア「シンガポール、マレーシア」、JICC出版局(1988)
旅行のガイドブックは掃いて捨てるほどあるが、我々虫屋のように有名観光地を回る旅ではなく、1人山野に分け入り、全てを自分自身でしなくてはならない者にとって、本書は格好のガイドブックである。
2. 海外旅行ポケット通訳 六カ国語会話「東南アジア編」、交通公社(1987)
日本語と英語のほか韓国語、中国語(普通話)、中国(広東)語、タイ語が対訳になっている日常会話集であり、これ1冊あればほとんどのことは用が足りる。

▼ 昆虫に関するもの

1. 油井秀臣(1973)ウンカウイ島採集記、月刊むし 22:25
2. " (1973)蝶の宝庫? キャメロン・ハイランド、月刊むし 23:24
3. " (1973)再びマレーシアへ、月刊むし 26:44
これらはいずれも15年も前の採集記であり、最早環境もかなり変わってしまった所も多いが、それでも参考になるところは多く、何よりも読んで楽しい。
4. —— (1979)海外の採集地案内特集号・第1弾、月刊むし 105
海外旅行をする「むし屋」のバイブル的なものであり、参考になることが非常に多く、必ず持っていくべきであろう。
5. 西村五郎(1973)マレー半島に熱帯蝶を求めて、昆虫と自然 8(5):26
グヌン・ブリンチャンで初めてネッタイミドリを採集した時の模様などが記述されている。
6. 大河原敏男(1975)ペナン島(マレーシア)の蝶、昆虫と自然 10(11):11
7. 福田晴男・平沢和夫(1976)マレー半島蝶の旅(1)、昆虫と自然 11(9):25
8. 吉岡秀子(1983)マレー半島蝶採集記、昆虫と自然 18(13):7
9. 安達 薫(1984)海外採集地案内「マレーシア・フレザービル」、昆虫と自然 19(7):19
10. —— (1984)アワンの一日、TSU・I・SO (415)
11. —— (1984)熱帯ジャングルにすむコノハムシ、TSU・I・SO (418)
12. —— (1987)アカエリトリバネアゲハの幼虫発見、TSU・I・SO (524)
13. —— (1987)マレーシア旅日記、TSU・I・SO (526)
14. 中野昭二(1983)マレーシア採集ミニガイド、多摩虫 7(15):4
15. 三橋 渡(1988)西マレーシアにチョウを求めて、多摩虫 10(23):1

《 G. おわりに 》

はじめてマレーシアに採集に行った訳であるが、やはり自分自身で行ってみて、初めて色々なことが分かったというのが偽らざる実感である。

2月中旬までは雨期であり、高地での採集には向かないということも分かった。(これは、私が目を通したどの文献にも書いてなかった)とは言うものの、10日間くらいの短期の採集旅行であるならば、そしてそれが初めてであるならば、間違いなく平地での採集が堪能できる。なにしろこの狭いマレーシア半島に1000種を越す蝶々がいるのだから。今回私が回ったところは、有名採集地や、リゾート地など良く知られた場所ばかりであり、成果は平凡なものと思われるが(標本を全部整理してみなければ、本当のところは分からない。もの凄い珍品が採れているかもしれない)、今は大満足している。そして、すこしでも早い時期に再度行ってみたいという思いがいっぱいである。

《さしだ はるき 〒920 金沢市材木町8-3》

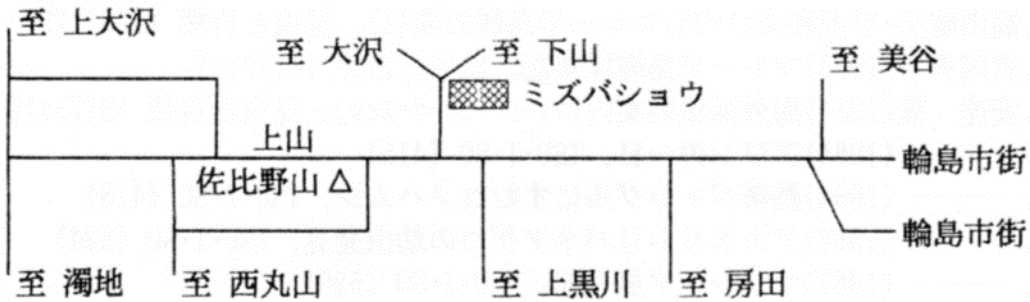
こんな道あんな道《林道佐比野線》

松井 正 人

この林道は並の林道と訳が違う。幅が広く、車は軽々と交差できるのである。更に辺境の村々を結ぶ使命を持っているので、この道を走ることによって周辺の至る所へ行くことができる。輪島市上大沢と言えそこは地の果て、先には荒潮押し寄せる歩道しかない能登半島でも秘境の地。こんな所へも楽々と出入りできるスーパー林道なのだ。

どちらが入口か知らないが、門前からウスバシロチョウで有名な薄野へ向い、途中の濁池から輪島市との境の峠へ向かうと、右手に入口がある。もう一方の入口は、なんと輪島市のベットタウン、〇〇団地の裏山にある。

この道をどのように使うかはあなたのかって、昆虫、植物、奇観とどれを取っても面白い。



《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

アサギマダラのヘアーペンシル

松井 正 人

ヘアーペンシルはオスの腹端に通常はしまいこまれている1対の毛束で、メスをだまくらかすフェロモンをばら撒く時に使われるが、僕はまだその現場を見たことがない。

しかし、1度だけ捕らえ損なったアサギマダラが出していたのを見たことがある。このアサギマダラは僕が振りそこねた捕虫網のワッカにぶつかり、脳震盪でも起こした状態で叢に横たわっている時に、しぼんだヘアーペンシルを出していた。ショックで出したものか、しぼんでしまったのかは分からない。

1度でいいから、ヘアーペンシルを開いて飛んでいるアサギマダラを観察したいものである。

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

SUN SUN 午後

原稿の締切が迫っていらいらしている時に、どうしておまえが現れるのよ。やめてよね～おまえのテカテカした背中を見ると、私の首筋にゾッと冷たい気が流れていくんだから。思わず奇声を発してしまうけれど、それは人を呼ぶためよ。オット！今だれもいないじゃないの、どうしろと言うのよ、殺虫剤しかないじゃないの！ だいたいおまえは殺虫剤を振りかけると、ただでさえカサコソ良く動き回るのが一層せわしなくなっって……

キャ～～床に落ちた。ワァ～そんなに足をバタバタしないで！ 触角を忙しく動かすんじゃないよ。ア～ひっくり返った。お腹を見せないで～ヒェ～おまえは我が愛する蝶たちと同じ、6本足だ！ 許されると思ってるのかよ。オ～足に毛が生えている。ギャ～そこから移動するな！ 床が汚れるじゃないの！ おまえの歩いた後は避けて通らなければいけないんだから、行動範囲を広げるな！ アッ！ こっちへ来るなってば。ワッ！ また背中を見せた。どうしてそんなにテカテカなのよ。どうしてそんなペラペラの不気味な羽なのよ。おまえはその羽で外から飛んで来て、バサッ！ って不気味な音を立てて壁に止まるんだから、そんなとき私がどんな思いをするか分かってるのかよ～そりゃ私だって少しは同情もするわよ。おまえだって好きでこんな姿に生れてきた訳じゃなし… でもやっぱり、ウ～吐き気がしてきた～もう15分もたったじゃないのよ～全くしぶとい奴だよね。まだ動いてるよ。もう1回殺虫剤かけてやろうか。おまえが動かなくなるまで落ち着いて何もできないじゃないの。そうだ！ 割箸でつまんで外へ出そうか。ア～ダメダメ！ そんな事したらおまえの動きが箸から手へ伝わってくるじゃないの。ウ～考えただけでもゾッとするよ～全くどうしてこの世の中に、ゴキブリが… ワ～ついに書いてしまったこの4文字。ウ～エンピツを伝わって手が腐ってきそうよ～。

おまえに比べて、あのイモ虫、毛虫たちのなんてかわいいことか。ギフチョウのあの黒いビロードの様な光沢、アゲハたちのコロコロとして可愛らしい事、思わず頬ずりしたくなるよ。タテハのトゲトゲもカッコいいじゃないの。アオバセリなんて美の典型なんだからね。それにね、スズメガやヤママユのぶっとい体も何ともかわいいものだわよ。まるで小鳥の羽毛の様にフワフワした毛にびっしり包まれて、頭をなでるとブルブルって可愛いく羽を震わすんだよね。身震いするほど可愛いじゃないの… なによ！ 変な目で見ないでよ。変わってるって言いたいんでしょ。フン！ どうせ女虫屋なんて世間から見れば変人よ。なによ！ ほっといてよ。おまえのテカテカよりましだわよ。それより早く動きを止めてよ。殺虫剤片手におまえとこんな事してる暇なんてないんだから。早く原稿書かないとムシバカセがうるさいんだから… もう30分も損したじゃないの。どうしてくれるのよ……

会員の動き。しゃばの動き

☛ 3月26日蝶談会面々は3月のギフを求めて各地に散らばっていたが、初見から10日以上も経つというのに何処もチラホラといった感じ。

☛ 石川の自然シリーズ『ブナ林』が発刊された(2800円)。貧乏出版社は原稿料の代わりに現物支給をしたらしく、小幡氏の所には山の様に積まれている。

☛ 4月1日野中氏、新保辺りで赤紋が異常に発達したギフを確認。写真には納めたものの、振り逃してしまったとさ。

☛ 4月2日快晴。まさしくギフ日和。神戸より来沢した中川氏と共に、松井、野中組はギフに走った。

☛ 福井むしの会、白山へ大昆虫調査団の派遣を予定。許可証も申請済とかで、タカネヒカゲ、コヒオドシ等の謎が解けるかもしれない。

☛ ここのところ日曜は雨ばかり、ところが井村、中西コンビは「ランに雨は関係ない」と忙しく動いている。

☛ 4月22日田辺氏に、第2子誕生。麻里(まり)ちゃんと命名。連休前の忙しさにあわただしさが加わったが、顔はニッコリ、心はバラ色。

☛ 4月23日Mr.ランキチこと中西、井村の2氏、Mr.アオダカシにたきつけられ石動山へ。アオダカシこと野中氏の目当てはランとは全く無関係、ところがどちらもボツって仲良く山菜を採ってきた。

☛ 4月28日吉村(弟)氏、明日からのギフチョウ作戦に参加すべく、深夜金沢入り。

☛ 4月29日嗟峨井氏、鶴来町八幡でウスバシロ多数を目撃。例年より1週間程早い。

☛ 4月29日正午頃、宝達山のお池付近でギフチョウが目撃された。目撃者はナカオ山岳会の林 正一氏。付近にカンアオイは無く、遠く森本付近から飛来したもののか、あるいはフタバアオイで発生したものか。

☛ 4月29日巷では本県初の4月のウスバシロが飛び回っているのに、松井氏1人役人に交じって「みどりの日」の風船を飛ばしていた。

☛ 4月29日吉村兄弟、ヒメギフみたいなギフを見に木島平へ。ところが当り一面の新雪にただただ怖れおののくばかり。

☛ 4月29日勝海氏、いつもの彼女と白馬へ。ネットはいつの間にか2本に増えていて、徐々に戦力になっている様だった。なお、イエローは確認できず。

☛ 4月30日勝海氏、戦闘力がUPしている彼女を伴い、平村はサイシンポイントのギフを狙った。天気は最高、しかし成虫はゼロ。サイシンに産みたての卵を採ってきた。

☛ 4月30日元気印の井村氏、夜勤あけで寝不足の中西氏を誘って宝立山へ。そこいら中を走り回る元気印と車中で仮眠の寝不足コンビ。ついにクマガイソウを発見。

☛ 4月30日松井、野中、指田の3氏、ウスバシロを狙って奥能登へ。数ポイント回ったらしいが、全てボツ。まだ早かったようだ。

☛4月30日吉村兄弟、白馬へ。イエローバンドを確認。確率は25%。

☛5月1日だんだら3号(福井むしの会)が出た。2号が出てまだ半年、内容も豊富で、読んでいて興奮してきた。良く動いてますねえ。なんだかこっちが落ち目なだけに余計光って見えたりして。

☛5月2日勝海氏、能登へ。門前でクロコムラサキ幼虫、富来でジャコウアゲハを採る。なお、今日は1人ぼっち。

☛5月3日勝海氏、チャマダラを狙って開田高原へ。時期尚早でボツだったが、ニレの幼木より、シータやカラスシジミの卵を確認。なお、今日も1人ぼっち。

☛5月3日吉村兄弟、白峰のギフに挑戦したが、影もなし。

☛5月4日田中氏、家族サービスで猿山までドライブ。ウスバシロはまだいなかった。

☛5月4日吉村兄弟、またまた白馬へ。イエローバンドは確認できず。

☛5月4日松井、野中のワンゲルコンビは山中町で富士登山。ピーク付近はブナ林で、いくらか伸びた新芽には、怪しく輝くクワガタが次々と飛来していた。

☛5月4日勝海氏、今日は仲良く2人でのんびりと板尾へ。各種アゲハにネットを振った。

☛5月5日嵯峨井氏、下小屋あたりまでドライブ。道路改良は聞きしに勝り、車、車で、押すな押すなだった。

☛5月5日松田氏、福井の三面へチャマダラセセリの調査に出かけたものの、全くボツった様子。

☛5月5日中西、野中、井村、松井の年寄り組、往時を思い懐かしの採集地へ。いまもヤマシャクヤクは健在で、フタスジカタビロをたくさん採ってきた。

☛5月5日田辺氏、最近仕込んだF2.0の90mmマクロを抱えて、ふるさと神岡へ。ウスバシロやツマキなど、気の済むまで撮りまくっていたら、溜っていた疲れがスーととれていった。

☛5月5日澤田氏、ピドニアを狙い買ったばかりのつなぎを持って医王山へ。ところがタニウツギが咲いていず、あえなく敗退。

☛小檜山賢二の生態写真集第2段「しろちょう」が出た。第1段「あげはちょう」と同じくNTT推薦で、額支局を通すと2割引で手に入る。

☛小幡氏、最近イワナ釣りに出かけても、手頃な川虫がなかなか採れない。羽化期になるといつも川虫捜しに苦勞するらしい。

☛澤田氏、最近ゼフに備えてむし社から9m竿を購入。ところがふし持ちのため持ち運びが大変で、3本程しか持ち歩かないらしい。

☛山岸氏、最近官舎に引っ越すとかで、連休は何処へも行けず大急がし。ういた家賃で、金沢から通おうかと考えている。0776-67-3184(5月18日から)

☛田中氏、最近鉢植えのエノキにテングチョウが産卵していったらしく、観察には打ってつけと話していた。

☛嵯峨井氏、最近ペレン島のツマベニを展翅していたら、どうもデタニとの合いの子みたいな顔をしたツマベニがあったらしい。

野村氏、最近はますます忙しく、4月28日からは全く休みがとれず、ホっとする間もない。今日が何月の何曜日なのか全然わかんないとか。

中西氏、最近ラン鉢に凝っている。市販のものでは納得できず、自然石をくりぬいている。1号作品は白山の材木石を使ったもので、いまひとつの出来らしい。

5月14日勝海氏、彼女にせがまれ、またまた板尾へ。吸水個体を楽々ネットイン。彼女も御満悦。

5月16日松井夫人、ススタケ狩りの帰りに竹又でウスバシロを目撃。最近森本でもウスバシロが普通になった。

5月21日山岸氏、またまた付き合いゴルフ。「やんなっちゃう」と言いながらも、お相手はハタチのギャル。

例会の記録

4月7日(金)城南管工2Fにて8時より開催。4月はもちろんギフチョウ特集。御殿峠、杣山、大多和、成出、白馬、等々。中でも杣山はピカイチで、異常型の域を抜け、これはもう別種とも言える見事なものだった。その他持ち込みは、指田氏御自マレーの蝶、対馬のエビネ(井村)、中国産各種カンアオイ(近藤)でした。参加は吉村(弟)、澤田、指田、山岸、松井、野中、中西(2人)、井村、小幡、勝海、近藤でした。

目次

野中 勝：スギタニルリシジミの浅野川水系からの記録	1
松井正人：能登のオオムラサキ	1
吉村久貴：1989年度ギフチョウ確認記録	2
野中 勝：ギフチョウ初見記録の追加	2
野中 勝：ミズイロオナガシジミをサクラより採卵	3
野中 勝：金沢市近傍のメスアカミドリシジミの記録	3
舛藤・松井氏：熊走でウスバシロチョウを採卵	4
松井正人：8月の八尾町白木峰にて	4
指田春喜：マレーシア採集旅行覚え書	5
松井正人：こんな道あんな道《林道佐比野線》	15
松井正人：アサギマダラのヘアーペンシル	15
ヒロコ：SUN SUN 午後	16
編集部：会員の動き・しゃぼの動き	17
編集部：例会の記録	19

とぶ NO.77

1989年6月2日発行

〒920-01 金沢市大場町東871-15 松井方
百万石蝶談会
☎ 0762-58-2727
振替 金沢5-562

印刷 小西紙店印刷所